

## (Ⅱ) 各研修会の概要

### ◆第1回合同研修会

1. 目的 県内で実施される「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援活動」「土曜日の教育支援体制等構築」「学ぶ力を育てる土曜学習支援」に関わる市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。
2. 主催 滋賀県教育委員会
3. 参加対象 (1) 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」実施市町担当者  
(2) 上記事業の未実施市町における参加希望者
4. 日時 平成27年5月29日(金) 13:45～17:05
5. 日程
  - ・行政説明 ○各事業の概要・趣旨  
○本年度のスケジュール  
○事業推進に当たっての留意点
  - ・講演：「事業担当者に期待したい視点」～学校と地域が協働で子どもを育てるシステムのあり方を考える～  
講師：高木 和久 氏（滋賀県「学校・家庭・地域連携協力推進事業」推進協議会委員、びわこ学院大学准教授、文部科学省コミュニティ・スクール推進員）
6. 場所 県庁北新館5A会議室
7. 参加者数 25名
8. 概要

行政説明では、県担当者より、「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の概要・趣旨等の説明後、補助金事務の流れや本年度年間研修計画等のスケジュール、コーディネーター等の謝金単価や補助対象外経費等の取扱い、事業実施にあたっての留意点等について、質疑応答も含めて説明を行った。

講演では、講師が実際に、地域においてCSの立ち上げや運営に携わった経験や、文部科学省のコミュニティ・スクール推進員として関わった全国各地の様々な事例を踏まえ、今後の「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の実施・運営や、CSの導入促進に向けた取組において、大切にすべきことや期待したい視点等について、具体例を示しながら説明いただいた。

#### ○参加者のアンケートより

- ・担当者として考えさせられることがたくさんあり、非常に有意義な時間になった。今後の市町を担う子どもたちを育てていくためには、学校と行政と地域の熟議が重要であることを改めて実感した。
- ・主役は子どもたちであり、目標はその地域をこれから支えていく子どもたちの育成であることを、例を提示しながら伝えてくださり、非常にわかりやすかった。
- ・「子どもをお客さんにしない」という考えがとても素晴らしいと思った。子ども対象の事業をしても、いつも大人がお膳立てしてきたなど反省した。今後の計画における改善点になると思った。



### ◆第2回合同研修会（「第1回学校と地域の連携・協働体制推進フォーラム」として開催）

- 1 目的 学校支援地域本部やCSをはじめとした、学校と地域の連携・協働体制の構築を一層推進するため、具体の方策等について、関係者一同がともに考える機会として、フォーラムを開催する。
- 2 主催 滋賀県教育委員会

- 3 参加対象** (1) 各市町担当職員 (2) 公立小・中学校教職員、県立学校教職員  
(3) 学校支援地域本部関係者 (4) 学校運営協議会関係者  
(5) 学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民 等

**4 日 時** 平成 27 年 6 月 17 日 (水) 13:00~16:55

**5 日 程**

- ・事例発表「長浜市立速水小学校運営協議会の取組」  
発表者 川瀬 晃 氏 (長浜市立速水小学校長)
- ・パネルディスカッション「学校と地域の持続可能な連携・協働体制のあり方について」  
パネラー：田中 諭 氏 (彦根市教育委員会事務局生涯学習課・主幹)  
久松 浩佐代 氏 (栗東市立栗東中学校・地域コーディネーター)  
川瀬 晃 氏 (長浜市立速水小学校・校長)  
コーディネーター：武井 哲郎 氏 (びわこ成蹊スポーツ大学・助教)
- ・講演「湖南市における学校と地域の連携・協働体制の取組」  
講師：谷口 茂雄 氏 (湖南市教育委員会・教育長)

**6 場 所** 県庁東館 7 階大会議室

**7 参加者数** 111 名

**8 概 要**

事例発表では、長浜市立速水小学校の川瀬校長より、CS としての 6 年間の歩みについて、発表いただいた。組織や活動内容、成果等、具体的な内容であったため、参加者が CS の取組イメージを広げることができた。

パネルディスカッションでは、びわこ成蹊スポーツ大学の武井助教によるコーディネートにより、学校と地域の連携体制を一過性のものに終わらせることなく、地域の中に根付かせるためには、どうすればよいか、主に「人と経費の確保」という点について、各パネラーから様々な立場の意見を出していただき、ディスカッションを行った。

湖南市教育委員会の谷口教育長による講演では、CS と学校支援地域本部の特徴や湖南市の取組の方向性などを、わかりやすく説明をいただいた。

また、子どもを中心に据えて、一人ひとりの子どもを伸ばすにはどうすればよいのかということを中心に考えながら、広い視野に立って取り組む姿勢は、参加者の心に響くものであり、多くの示唆を与えていただいた。

**○参加者のアンケートより**

- ・(事例発表) 学校と地域の連携において、実際にどのような委員会が必要か、というしくみを知ることができた。学校が開かれて、地域と一丸となって子どもを育てていくためには、学校の力だけでなく、様々な視点からの協力の上に成り立っていく必要があると思った。
- ・(パネルディスカッション) 持続可能な取組になるように、それぞれの立場で、しっかりと意見を持って、何ができるのかを考えていきたい。
- ・(講演) 学校と地域が連携していくことは、子どもの成長が最大の目的であり、そのためには、子どもの成長の姿を共有して、そして子どもを中心に活動していくことが大切だと感じた。地域と学校の連携の目的、その後の成果が、一つの目指すべき姿をして学ぶことができた。



## ◆第3回合同研修会

- 1 目的** 県内で実施される「学校・家庭・地域連携協力推進事業」に関わるコーディネーターや放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、家庭教育支援員、教育活動サポーター、行政担当者等の事業関係者が一堂に会し、資質向上に向けた研修会を実施することで、県内における各事業の効果的な推進を図る。
- 2 主催** 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象** 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者・土曜日の教育支援活動関係者・学校支援地域本部関係者・各市町行政関係者 等
- 4 日時** 平成27年8月21日（金）9：30～12：00
- 5 日程**  
・講演「気になる子ども」の理解と支援 ～子どもや保護者への関わり方と大切にしたいこと～  
講師：桂田 総司 氏（元守山市立小津小学校長）
- 6 場所** 県庁東館7階大会議室
- 7 参加者数** 41名
- 8 概要**

講師の桂田先生は、現役教員時代から特別支援教育を専門として活躍されてこられ、様々な特性を持ったお子さんへの関わり方について、実践事例や相談事例を挙げながら御講演をいただいた。気になる子どものニーズに応じて、「㊦たまごなしはダメ、㊧いかかわりはいっぱいある、㊨まいささえ（そう、その調子、それで良いよ等の㊩の付く言葉の声かけ）、㊪がおと余裕を持って、㊫こるひまあれば教える、わかりやすく」という「あいうえお」を語頭にした覚えやすい子どもへの関わり方の基本や、その子を「わかる」→「わかる」→「かかわる」ということなどについて具体例をもとに学んだ。



## ○参加者のアンケートより

- ・障害を持つ子への対応の仕方などについて、非常に参考になった。今後も機会があれば、今回と同様の研修会をお願いしたい。
- ・校内に気になる児童が増えてきたように思う。直接、詳しく学ぶこともなく対応してきたが、今日の研修会で具体的に分かりやすく話してもらい、実行する際の参考になった。

## ◆第4回合同研修会（「第2回学校と地域の連携・協働体制推進フォーラム」として開催）

- 1 目的** 学校と地域の連携・協働体制の構築を一層推進するための具体的方策等について、関係者がともに考える機会として、文部科学省コミュニティ・スクール推進員による講演などから、保護者や地域住民等との協働による学校づくりの推進に資する現行の制度や学校と地域の連携・協働体制による効果などについて、理解を深める。

2 主 催 滋賀県教育委員会

3 参加対象 (1) 各市町担当職員 (2) 公立小・中学校教職員、県立学校教職員  
(3) 学校支援地域本部関係者 (4) 学校運営協議会関係者  
(5) 学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民 等

4 日 時 平成 27 年 10 月 30 日 (金) 13:00~16:45

5 日 程

- ・講演「学校と地域でともにつくりあげるコミュニティ・スクール」  
講師：文部科学省コミュニティ・スクール推進員〔CSマイスター〕  
岐阜県白川村教育委員会 社会教育主事 新谷 さゆり氏
- ・グループワーク：熟議「地域で子どもを支える大人の役割」

6 場 所 県庁東館 7 階大会議室

7 参加者数 72名

8 概 要

講演では、御自身の経験をもとに、CS導入による学校や子どもへの効果や、学校を核とした地域づくりの有効性、CS導入の実際の流れなどを、わかりやすく説明いただいた。実務に則し、地域との連携について示唆に富んだお話をいただいた。

また、グループワークでは、「地域で子どもを支える大人の役割」というテーマで熟議の場を設定した。はじめに、「現代の社会状況、教育環境などにおいて、子どもたちにとって、足りないと思われることは何か。」をグループで出し合い、解決策について話し合っていた。その中で、個々の立場での手立ては限界があるが、連携することで質や量が充実するといった「連携の重要性」や、今の子どもに欠けているものは、今の大人にも欠けているものと共通するのでは、といった「大人が変わる必要性」など、様々な「気づき」が生まれた。最後には、グループの発表を聞き合い、それぞれの学びを共有した。

#### ○参加者のアンケートより

- ・地域との連携について、たくさんのヒント、そして何よりも、そこに賭ける情熱をいただいた。学校に帰って活かしていきたい。
- ・小・中学校で推進されていくCSを、高校でも引き継いでいくことが必要であると感じた。
- ・「地域と学校がつながる」とは「行事でつながる」だけではない、という言葉が大変印象的であった。

### ◆第5回合同研修会

1 目 的 県内で実施される「学校・家庭・地域連携協力推進事業」に関わるコーディネーターや教育活動推進員等の事業関係者、学校教職員、行政職員等に対して、実施市町における各取組を発信するとともに、地域社会全体で子どもの育ちを支える体制づくりを推進し、地域の教育力の向上を図るため、これからの在り方について研修を深める機会とする。



2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会

3 参加対象 (1) 各市町担当職員 (2) 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者  
(3) 学校支援地域本部関係者 (4) 土曜日の教育支援活動関係者  
(5) 家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者  
(6) 公立小・中学校教職員、県立学校教職員  
(7) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者  
(8) その他 学校と地域の連携・協働に関する事業関係者 等

4 日 時 平成 28 年 1 月 26 日（火） 13:20～16:40

5 日 程

・事例発表

「学校支援地域本部」の報告 竜王町公民館 関川 雅之 氏

竜王町統括コーディネーター 長岡 道子 氏

「放課後子ども教室」の報告 野洲市教育委員会事務局生涯学習スポーツ課 橋本 百代 氏

野洲市篠原学区地域子ども教室 苗村 明夫 氏

「家庭教育支援活動」の報告 甲賀市教育委員会事務局こども未来課 中森 久弥 氏

「土曜日の教育支援」の報告 彦根市教育委員会事務局生涯学習課 川添 義夫 氏

・講演「学校・家庭・地域の連携・協働による新しい豊かさの創造 子ども育ちの『縁』を結ぶ」

講師：昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンター長 興梠 寛 氏

6 場 所 県庁東館 7 階大会議室

7 参加者数 96名

8 概 要

#### ○事例発表の概要

・各事業の事例発表の後、講師から以下の講評をいただいた。

[学校支援地域本部] 統括マネージャー配置の意義。市民も等しく教育責任を負うことが必要。  
行政担当者と対等な関係が大切。

[放課後子ども教室] 地域の大人に意識的にアプローチし、大人同士のつながりが生まれている。  
「誰もが興味を持てる事業の展開」「子ども本位の取組」がプログラム作りのポイント。

[家庭教育支援] 保護者自身が気づき、考え、行動するための機会を提供する。『いきいき孫育て講座』は先進的取組事例。

[土曜日の教育支援] 『土曜学習教室でみる』の実践は、まさにコミュニティサービスラーニング。  
子どものチャレンジ精神を引き出す取組。高・大生の学びの場（青年期教育）としても重要。

#### ○講演の概要

社会教育の3つの課題として、①ライフスタイルを変える（人や社会とつながる暮らしを提案する）ボランティアライフ、②学びを変える（課題解決的な学びを提供する）シチズンシップ学習、③コミュニティを変える（責任ある市民を育む拠点をつくる）マッチング拠点整備の必要性について説明いただいた。また、共生社会の『縁結人（えんむすびと）』としてのコーディネーターの役割や重要性、人と人、人と社会を繋いでいく仕組みづくり、知の循環型社会の形成をめざすことの大切さについて学んだ。

#### ○参加者のアンケートより

・ボランティアの捉え方や、これからの社会への生かし方の方向がよくわかった。

・ボランティアをどう生かすと良いのかヒントをいただいた。

